

夢や愛 障害越え表現

中区 英国人ソープさん絵画展



色鮮やかな作品が並ぶマッケンジー・ソープ絵画展＝中区の電気文化会館で

学習障害の一つ「読み書き障害(ディスレクシア)」に苦しみながらも絵画の才能を開花させ、英国を代表する画家となったマッケンジー・ソープさん(60)の絵画展が十二日、中区栄一の電気文

化会館で始まった。夢を持つことの大切さや障害への理解を訴えている。ソープさんは子ども

「い」といったレッテルを貼られた。中学校を中退して工場やパン店に勤め、つらいときは絵を描いていた。友人

子どもの虐待防止に取り組むNPO法人「CAPNA(キャブナ)」が設立二十周年を記念して企画した。元理事長で弁護士

かみの中に、突き上げてくる熱い思いがあるのを感じ取って」と来場を呼び掛ける。十五日午後一時半から、電気文化会館イベントホールで、読み書き障害についてのシンポジウムもあり、パネ

今回の絵画展では、版画四十点や原画二十点などを展示している。目立つのは白く丸い顔をした子どもの作品。「子どものころのほかに、愛を象徴するハートも多く描かれている。

加費五百円。絵画展は十六日午後五時まで、入場無料。

(戸川祐馬)